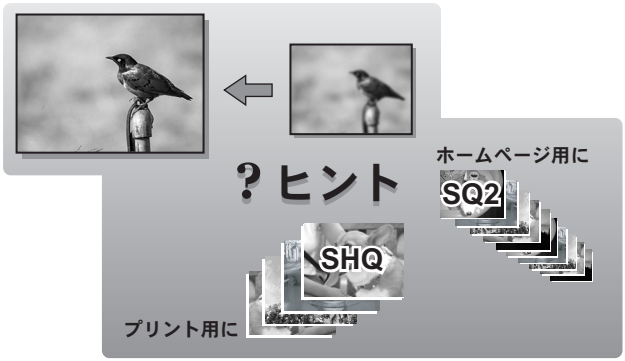
撮影前に知っておきたいこと

2

モードダイヤルを AUTO または P に合わせてシャッターボタンを押すだけで、ほとんどの場合は上手く撮ることができます。でも、どうしても被写体にピントが合わない、被写体が暗く撮れてしまうなど、思い通りに撮れない・・・・ということはありませんか？
そんなとき、ちょっとした撮影のコツを活用したり、カメラの簡単な機能を使うだけで、問題が解消する場合もあります。
また、撮影後の画像の利用方法に合わせて画像サイズを選択して撮影すると、1 枚のカードにより多くの画像を記録することができます。これも“ちょっとしたコツ”のひとつです。



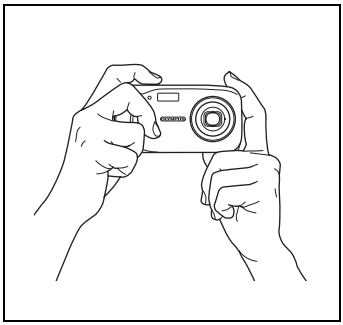
カメラの正しい構え方

撮影した画像を見ると、被写体の輪郭がはっきりしないときがあります。このようなときはシャッターボタンを押し込んだ瞬間にカメラを持つ手がぶれたり、カメラが動いたりしていることがあります。

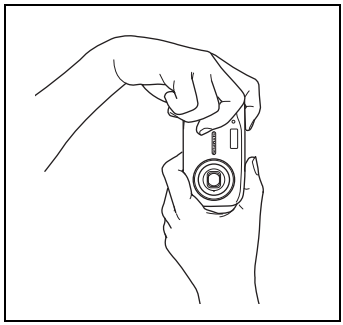
被写体の輪郭がはっきりしない画像

このような失敗を防ぐために、カメラは脇を締めて両手でしっかり持ちましょう。カメラを縦位置で持つときは、フラッシュがレンズより上になるように持ちます。レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

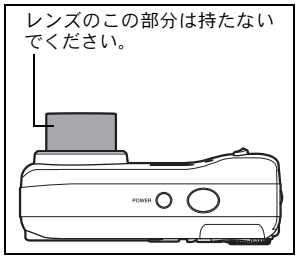
横位置



縦位置



上面図



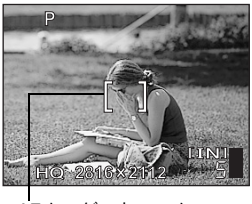
ピントが合わないとき

カメラは撮影する構図の中で、自動的にピントを合わせるべきものを検出します。被写体を検出する際、コントラストの強さも判断の基準になります。被写体のコントラストが周囲に比べて弱いときや、よりコントラストの強い部分が構図の中にあるときは、カメラは判断を誤る場合があります。その場合のもっとも簡単な対処法にフォーカスロックがあります。

ピント合わせの方法（フォーカスロック）

1 **ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。**

- ピントが合いにくいものや速く走るものの場合、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。



AFターゲットマーク

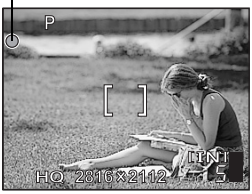
2 **シャッターボタンを緑ランプが点灯するまで押します（半押し）。**

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

シャッターボタン

3 **半押しの状態のまま撮影したい構図にします。**

緑ランプ



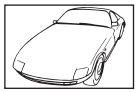
4 **シャッターボタンを押し込みます（全押し）。**

シャッターボタン

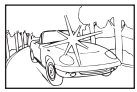
オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

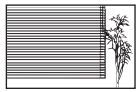
緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません。



コントラストがはっきりしない被写体



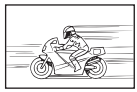
画面中央に極端に明るいものがある場合



縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合



動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

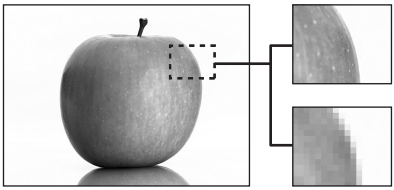
いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

画質について

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。各画質モードでの画像サイズや撮影可能枚数・時間については、P.28の表をご覧ください。

静止画の画質モード

画質モードは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを表しています。
画像はピクセル（点）の集まりでできています。ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、記録できる枚数が少なくなりますが、密度が高く精細になります。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。



画像が精細になる

画像サイズが大きくなる

用途	圧縮 / 画像サイズ	低圧縮	高圧縮
プリントサイズに合わせて選択	2816 × 2112	SHQ	HQ
	1600 × 1200	—	SQ1
小さいプリントやホームページ用	640 × 480	—	SQ2

画像サイズ
画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きな画像サイズで記録しておくときれいにプリントされます。

圧縮
画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

ムービーの画質モード

Motion-JPEG形式でムービーを記録します。

撮影可能枚数・撮影可能時間

静止画の場合

画質モード	画像サイズ	撮影可能枚数（枚）	
		内蔵メモリ	カード（32MBの場合）
SHQ	2816 × 2112	3	7
HQ	2816 × 2112	9	21
SQ1	1600 × 1200	28	64
SQ2	640 × 480	144	331

ムービーの場合

画質モード	画像サイズ	撮影可能時間（秒）	
		内蔵メモリ	カード（32MBの場合）
HQ	320 × 240（30コマ／秒）	21秒	48秒
SQ	320 × 240（15コマ／秒）	42秒	96秒

撮影可能枚数

撮影可能時間

? ヒント

- 撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024 × 768 ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024 × 768のとき画像を等倍（100%）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280 × 1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

ご注意

- 撮影可能枚数、撮影可能時間はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても枚数が変わらないことがあります。

画質モードを変更する

トップメニュー▶[画質モード] ☞「メニューの使い方」(P.17)

1 **[SHQ] [HQ] [SQ1] [SQ2] から選択し、OK/MENUを押します。**

静止画の場合

ムービーの場合は、画質モードを[HQ] [SQ] から選択し、OK/MENUを押します。

ムービーの場合

ヒント

- 設定した画質モードをカメラの電源をオフにしても記憶しておきたい場合は、設定保持を「する」に設定します。☞「カメラの設定を記憶する(設定保持)」(P.72)

画像の保存について

撮影した画像はカメラの内蔵メモリに記録されます。
また、xD-ピクチャーカード（以降カードと呼びます）に記録することもできます。カードを使うと内蔵メモリより多くの画像を記録しておくことができます。旅行などで枚数をたくさん撮影するときは、カードを使用すると便利です。

●内蔵メモリについて

内蔵メモリは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。
内蔵メモリに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。内蔵メモリはカメラから取り出したり、交換したりすることはできません。

内蔵メモリとカードの関係

内蔵メモリまたはカードのどちらを使用して撮影・再生しているか、液晶モニタの表示で確認できます。

液晶モニタ表示	撮影モードのとき	再生モードのとき
［IN］	内蔵メモリに記録されます。	内蔵メモリ内の画像を再生しています。
［xD］	カードに記録されます。	カード内の画像を再生しています。

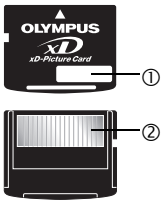
- 内蔵メモリとカードを同時に使用することはできません。
- カードが入っていると、内蔵メモリへ記録・再生はできません。内蔵メモリを使用するときは、カードを抜いてください。
- 内蔵メモリに記録された画像をカードにコピーすることができます。☞「内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）」（P.67）

カードを使う

カードについて

カードとは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。
カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工したりすることができます。
容量の大きなカードに交換すると記録できる枚数を増やすことができます。

① インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。
② 接触面（コンタクトエリア）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。



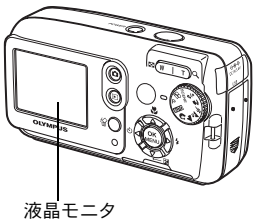
使用できるカード
- xD-ピクチャーカード（16MB～1GB）

ご注意
- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「フォーマット」(P.70)
- フォーマットや削除をしてもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

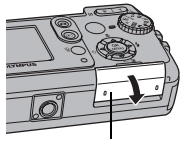
カードを入れる

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

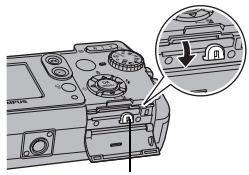
- 液晶モニタが消灯している。
- レンズが出ていない。



2 **カードカバーを開けます。**



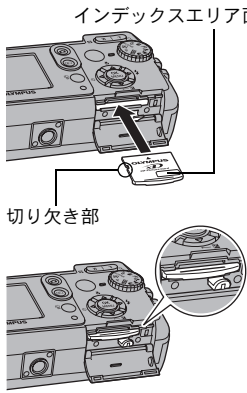
3 **カードロックを開きます。**



●カードを入れる

4 **カードの向きを図のように正しく合わせて入れます。**

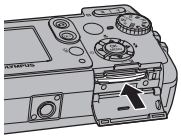
- カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
- カードを奥まで差し込むとカチッという音がして、ロックされます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。



カードが正しく入った状態

●カードを取り出す

4 カードを一度奥に向かって押しこんで、そのままゆっくり戻します。

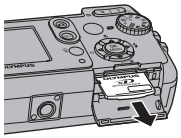


• カードが手前に出て止まります。

注意

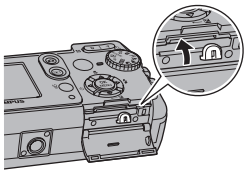
カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

• カードをつまんで取り出します。

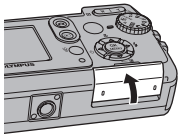


5 カードロックを閉じます。

• カードロックを閉じないと、カードカバーは閉まりません。



6 カードカバーを閉じます。



電池について

このカメラでは付属の電池の他、次の電池を使用することができます。用途にあわせてお選びください。

●単3形アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3形アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。
このカメラでは単3形アルカリ電池を2本使用します。

●ニッケル水素電池（充電式電池）

当社製ニッケル水素電池は、繰り返し使用できるので経済的です。ただし、電池の容量を使いきらずに充電を繰り返すと1回の使用時間が次第に短くなります。
ご購入の際、ニッケル水素電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器で充電を行ってください。詳しくは、充電器に付属の取扱説明書をお読みください。
このカメラではニッケル水素電池を2本使用します。

●リチウム電池パック（CR-V3）

当社製リチウム電池パックCR-V3は寿命が長く、単3形アルカリ電池と比べ長時間使用することができます。ただし、充電できません。リチウム電池パックのラベルは、はがさないでください。
このカメラではリチウム電池パックを1個使用します。

重要

単3マンガン電池は使用できません。

ご注意

- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- 消耗した電池やアルカリ電池などをお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れる場合があります。